

君は「最後の晚餐」を知っているか

評論を読んで自分の考えをまとめよう
筆者の絵の見方について自分の考えをまとめる

学習のねらい

- ・ 語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。
- ・ 筆者の絵画の見方について、自分の知識や体験と関連づけて考えをまとめる。

学習の流れ (全6時間)

第1次
(1時間)

「最後の晚餐」について関心をもち、本文を通読する。

- ① 「最後の晚餐」の修復の前後を見比べて、話し合う。A
- ② 通読してどちらが修復後か、修復作業について確認する。

第2次
(2時間)

「最後の晚餐」に対する筆者の見方を確かめる。

- ① 大段落1 (初め～P157L13) を読み、「最後の晚餐」について筆者が評している言葉を抜き出す。B
- ② 大段落2 (P158L1～P161L7) を読み、「最後の晚餐」に対する筆者の見方を捉える。
3つの「絵画の科学」について、本文と「最後の晚餐」を照らし合わせて確かめる。

第3次
(3時間)

「カッコいい」という筆者の見方に対する自分の考えを発表し合い、話し合う。

- ① 大段落3 (P161L8～終わり) を読み、「カッコいい」と感じた理由について考えをまとめる。C
- ② 筆者の「最後の晚餐」評について、賛否や納得できるかなどを話し合う。
- ③ 「布施英利さんにきくー評論を書くということ」を視聴し、学習のまとめをする。D

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次①

「最後の晚餐」の修復の前後を見比べて、話し合う。

A

資料・ワーク：
「修復前の『最後の晚餐』と修復後の『最後の晚餐』」

修復前の「最後の晚餐」と修復後の「最後の晚餐」

修復前と修復後はそれぞれ拡大して見る事ができる。

デジタル教科書には「最後の晚餐」の修復前と修復後の画像が収録されている(A)。見比べて、どちらが修復前か後か、どんな修復作業が行われたか考えられるかを話し合った。この活動は「最後の晚餐」に対する関心を高めるとともに、「絵を読む」活動を経験させる第一歩となる。話し合いを通して、「どちらが修復後なのか、どんな修復が行われたのか」について知りたいと思えば、本文を読み進める動機になるだろう。

生徒の反応 絵の細部まで読み解く

「Aは色が薄いけどBは濃いのでBが修復後。絵の具を塗り直したのだろう。」「AがBより鮮やかなので修復後。汚れを落としたのではないか。」「Aはきれいだが、人の顔がなくなったりしている。Aが修復後なら、それは修復でなく破壊。」などさまざまな意見が出た。まず、絵の細部を読み解いてみることで、本文の読解が活性化した。

第2次①②

「最後の晚餐」に対する筆者の評を抜き出しながら、筆者の見方を確かめる。

B

資料・ワーク：
「本文を抜き出して、読みを深めよう」(黒板ツール)

生徒の発表した箇所をそのまま抜き出していく。

筆者のレオナルドおよび「最後の晚餐」評の1つのカギは、「絵画の科学性」への賞賛である。当時としては科学的で「全く新しい芸術」であったという見方は、生徒たちも捉えることが可能で、納得できる部分だろう。

いっぽうで、評論では書き手が対象(絵)をどう見ているのかわかる言葉を捉え、その中で最も個性的な(筆者独特の)表現に着目していくことが大切である。

中学生には筆者独特の見方と一般的な見方との区別が難しいので、筆者の見方が表れている語をまずは取り出してみるとよい。そして、その表現に対する賛否を出させたり(賛否両論が出るのが「筆者独特の見方」であることが少なくない)、同義の語をまとめさせたりして、筆者の見方に迫っていった。このようにさ

生徒の意見を内容に応じて並べ替え、整理していく。

ざまに表現や語を取り出して試行錯誤する場面で、「黒板ツール」(B)は効果的であった。

生徒の反応 キーワードを並べて整理

「カッコいい」、「全く新しいもの」、「新しい絵画」など、評論の筆者は自分の見方をいろいろな表現で言い換える。それに気づくのも評論を読む力の1つである。「黒板ツール」で語を並べていくことで、生徒がこのような筆者の言い換えに鋭敏に気づくことができ、議論が活性化した。

第3次①③

「最後の晚餐」に対する筆者の見方を捉え、それに対する自分の考えをもつ。

C

資料・ワーク：
「本文を抜き出して、読みを深めよう」

資料・ワーク：
「布施英利さんにきくー評論を書くということ」

大段落3では「しかし」「だから」などの接続詞の動きに着目させて、筆者の論理展開に着目した読み方を学んだ。「黒板ツール」(C)で接続詞と、その前後それぞれの要点をすばり述べた部分を抜き出して並べてみる。「細部は落ちて、消えてなくなっている」→「しかし」→「絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる」などと示すと、「しかし」の後に筆者の

言いたいことがある、などと生徒は気づくことができた。

学習のまとめにあたって、動画資料(D)を見ることで、評論を読むこと・書くことのポイントがつかめたように思う。

国語デジタル教科書
を活用した感想

今回は「黒板ツール」を中心に活用した。本文を示して共有しながら、映し出された文章や言葉をいっしょに操作していくことができるという意味で、思考操作そのものを可視化し共有することに近づいたように感じた。